

「体育」（１学年）指導略案

単元・題材名	球技 サッカー	生徒	１学年全員
		場所	体育館
日時	平成２８年１０月２７日（木） ５・６校時（１３：００～１４：４０）	指導者	MT 後藤 倫弘 ST 田中 龍右エ門、高山 愛望 小林 和幸、村瀬 はるな
単元の全体目標	・パス、シュートなどの基礎的な技術を知る。 ・チームで協力してミニゲームをすることができる。		
本時の目標	・インサイドキックを使ってシュートを決めることができる。 ・簡単なルールを理解し、ミニゲームをすることができる。		

時刻	学習活動	生徒の活動	教師の活動	教材・教具
導入 13:00	集合・整列 始業のあいさつ 出席の確認 準備運動 体ほぐし	○ランニング（３周） ○指名された生徒は挨拶をする。 ○前回の授業内容を復習する。 ○本時の内容を確認する ○体育委員を中心に体操 ○後藤の指示で動く （合図に合わせた動き） （２人１組で指示のとおり動く）	○挨拶する生徒を指名する。 ○前回の授業を振り返る。 ○授業の内容を説明する。 ○口頭で説明した後、見本を示す。 ＜協同学習の要素や配慮事項＞ ・課題を解決するために、教え合ったり、助け合ったりしてよいことを確認する。（②、配慮②⑤） ○STは生徒の様子を見ながら一緒に取り組む。 ○ふざけて取り組まないように声がけをする。（安全面）	ボール コーン バー
展開	パス練習（２人一組） ボールを確実に止めてパス（インサイドキック） 30秒から１分間 その他（ボールフィーリング等）	○２人１組でパス練習（パス＆ゴールの練習） *パスをする際に名前を呼んでパスをする。	○口頭で説明した後、見本を示す。 ○生徒と一緒に見本を行う。 ○インサイドキックのポイントを伝えつつ、受け取りやすいボールを蹴るための方法を考えさせる。 ＜協同学習の要素や配慮事項＞ ・課題を解決するために、教え合ったり、助け合ったりしてよいことを確認する。（②、配慮⑤） ・同じ学習課題の設定と構成を単元の中でできるだけ繰り返し、徐々に学習の量と質を高めていく。（配慮⑤⑧⑭） *指導者は全体を巡視する *難しい生徒は距離を短くする。	コーン （大小）

	水分補給・休憩 ・シュート練習	○水分補給・休憩をする。 ○ジグザグに走り、シュートする。 * インサイドキックで丁寧にゴールを狙う。 * 待ち時間の生徒も気を緩めないよう笛の合図でジャンプ等を行う。	○MT、STはシュート練習の準備を行う。 ○口頭で説明した後、見本を示す。 ＜協同学習の要素や配慮事項＞ ・同じ学習課題の設定と構成を単元の中でできるだけ繰り返し、徐々に学習の量と質を高めていく。(①②、配慮⑤⑧⑭) ○丁寧にコースを狙うよう伝える。	
	・ミニゲーム * ワークシートに記入	○チームで集まり、メンバーを決める。(ワークシート) ○人数を指定してゲームを行う。 ○2対2、3対3、4対4(2分) * ゲームを行っていないチームは応援やボール拾い、作戦を考える。 ○ゲーム終了後に振り返りを行う。 * Tさんルールあり。 一緒にゲームをすると危険なためゲームが終了したら一定の距離からシュートする。	○基本的なルールの説明をする。 ①キーパーなし ②スライディングなし ③ラインから出たボールはランダムに後藤がリスタートさせる。 ④礼儀を大事にする。 ＜協同学習の要素や配慮事項＞ ・チームで話し合う。(①④) ・互いの意見を聞いてまとめる。(②) ・チームのために発言する。(③) ・チームでゲームを振り返り評価する。(⑤) ・授業展開に沿ったワークシートを用意する。(配慮⑩) ・チーム内の仲間関係に常に注意を払っておく。(配慮⑥) ・チームに同調することが強制されないように注意を払う。(配慮⑦) ○人数の変化で攻め方や守り方の変化に気付かせる。	シート
まとめ 14:30	片づけ 整理体操 本時の振り返り	○全員で道具を片づける ○整理体操を行う ○各チームからワークシートで記入した「振り返り」「次に生かすために」の部分を発表する。	○全員で道具を片づけるよう促す。 ＜協同学習の要素や配慮事項＞ ・チームを代表して発表する。(③) ・話を聞くときは、うなづくなどのリアクションを取る。(④) ・メンバー全員が達成感を感じられるほめ方を工夫する。(配慮④)	シート

	次時の確認 終業のあいさつ	○バスケットボールを行うことを知る。 ○指名された生徒は挨拶をする。		
--	----------------------	---------------------------------------	--	--

（凡例）「前時の復習…」～授業の流れの骨子、 「○互いに教え合う…」～協同学習に関わる教師の活動

※（①）… 互恵的な相互依存関係 、 （②）… 対面的なやり取り 、 （③）… 個人としての責任

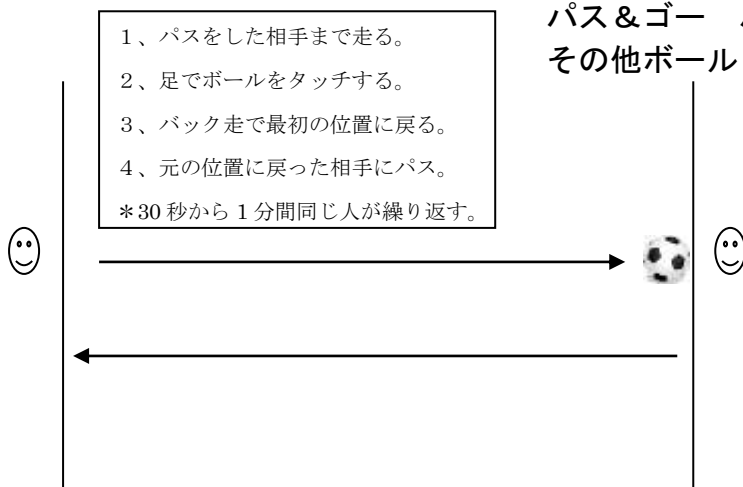
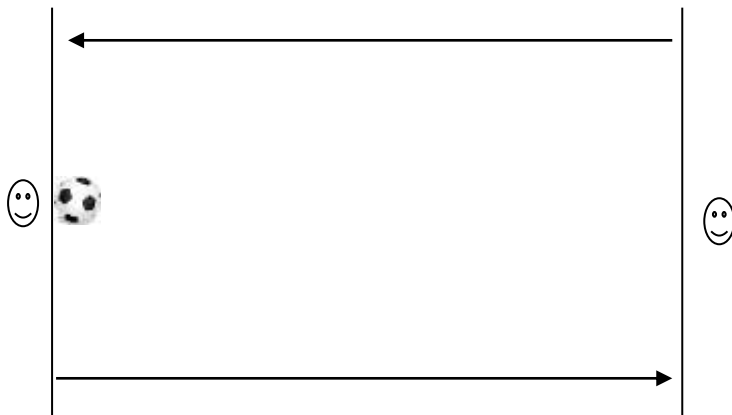
（④）… 協同学習スキル （⑤）… チームの振り返り

※（配慮①～⑪）… 配慮事項については、マニュアルP 8 ～ 1 0 参照。

※（配慮☆）… オリジナルの配慮事項。

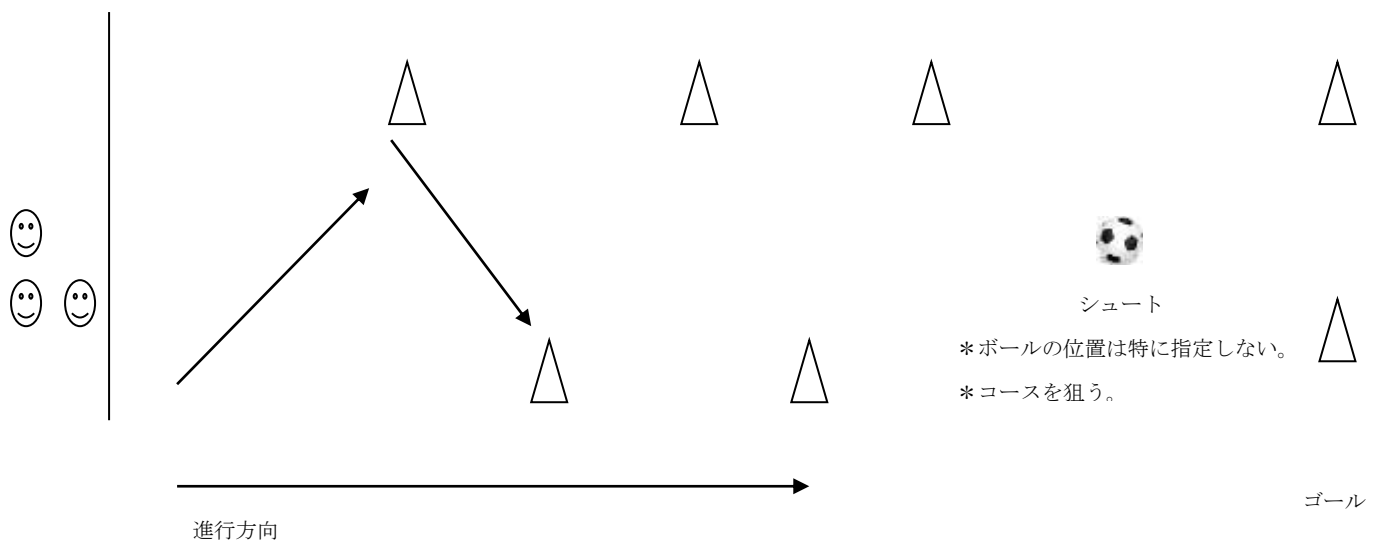
パス練習

- ・対面パス（しっかり止めてパス）



- 1、パスをした相手まで走る。
 - 2、足でボールをタッチする。
 - 3、バック走で最初の位置に戻る。
 - 4、元の位置に戻った相手にパス。
- *30 秒から 1 分間同じ人が繰り返す。

パス＆ゴー バック走 その他ボールフィーリング



ジグザグシュート

（コーンをジグザグに入り、シュートする。）

- シュート
- * ボールの位置は特に指定しない。
 - * コースを狙う。

授業参観者アンケート

授業者：後藤 倫弘
協同学習（各要素）についての評価
①互恵的な相互依存関係
②対面的なやりとり
・パス練習のときに、課題を解決するために話し合いや声かけができているペアもあれば、できていないペアもあったため、教師が個別に声かけをしたり、話し合いの時間を設けたりしたら良かったと思います。 ・インサイドパスの練習でボールを足裏で止めることやその訳を伝えることでペアの2人での教え合いや助け合いにつながったのではと感じました。 ・ペアの力量が同じ位で良かったです。パスの出し方についてペアで確認しながら取り組んでいました。 ・パス練習の時、互いに声をかけ合うように意識していたのが良かったです。 ・2人組でパスの練習のとき、ボールを蹴る強さなどをペアで相談する時間があった方が良いです。（考える時間） ・股抜パスは相手のことを思いやる気持ちが大切ということは同感です。相手の取りやすい距離やボールのスピードなどについて確認し合う活動があれば良いと思いました。 ・どのようにコミュニケーションして教え合うのか、助け合うのかについて、より明確になると良いです。 ・チームで話し合いができていて良かったです。
③個人としての責任
・チームのメンバー全員が一つの課題の達成や、目標の達成をできることが協同学習の基本となります。そのため、全員で参加して達成するためには「個人の責任」として一人ひとりに役割が必要となってきます。個人の責任として役割を決めるために試合が行われている間に試合をしていないチームは作戦を立てると指導案には書かれていますが、実際には作戦を立てているチームは見られませんでした。 ・チームで決めた目標を試合前に発表させると、個人の責任が明確になると思います。
④協同学習スキル
・グループやチームの活動のとき、拍手が起きたり、アドバイスや応援の声があって活発に活動ができていて良かったです。 ・協同学習の要素の④（協同学習スキル）が明記されていません。残念ながら、協同学習の授業とは言えません。協同学習に関する授業研である以上、協同学習の授業とはどういうものかについて、事前に十分に検討した上で、授業案を作成し授業を公開してください。
⑤チームの振り返り
・チームで振り返りを行い、それを発表することで共有する場が設けられていて良かったと思います。
協同学習全体を通して
・ゲームに参加するのが危険で難しい生徒には、一定の距離からシュートするとしており、個人としての責任としてゲームに参加しているということと、その様子を見ていた生徒が同じチーム結果を残念がっ

たり喜んだりしているのが見られ学びの共同体の関係ができていたと感じました。

- ・最後の試合形式サッカー体験をさせるのであれば、平易な作戦の立て方を指導したり、動き方を確認させたり、攻撃方向を確認し伝えたり、マークの付き方を簡単に良いので指導すると個人の役割とチームプレーの意味が明確になり、助け合ってゲームができたのではないのでしょうか。
- ・生徒がグループ決めを行うと力の強さが出ます。
- ・学習指導案に「協同学習の配慮事項」が明記されていて、どのようなことに留意して授業を展開しようとしているのかが分かりやすく、良かったです。

授業を通しての感想（良かったところ・改善点など）

- ・同じ学習に繰り返し取り組むことで生徒、動き方が大体分かっていてすばやく行動や移動ができていて良かったです。
- ・生徒に対する発問が抽象的な場面がありました。
- ・ホワイトボードに書かれている文字が薄く感じました。
- ・注意点の話をしている際、生徒に何がいけないのかを考えさせているのが良かったです。
- ・試合中にメガネが危険なのはわかりますが、外した状態で視覚的に見えにくい状態も危険に感じました。
- ・ラジオ体操や補強運動で伸ばしてほしい筋肉を伝えていて良かったです。
- ・説明が短く、活動時間を補償していてスピード感がある授業となりました。一方で、運動能力に差があり、理解力にも差があるため、消化しきれず、説明が理解できないまま活動していた生徒もあり、その加減の難しさを感じました。
- ・休憩後の集合時の人数確認をすると良かったと思います。生徒は戻ってくるとは思いますが、生徒把握をするためにチームごとで整列をさせると良いと思いました。
- ・シュート練習のとき、チームごとに1回目始めます！2回目始めます！など、回数を確認させる声かけをすると今、自分は何回目なのか分かりやすかったと思います。
- ・脚でボールを扱う難しさがある種目なので、視野は狭くなるし、技術の取得は難しいし、指導が難しい種目だと改めて勉強になりました。
- ・目標に対してインサイドキックを使ってシュートとありますが、インサイドキックの指導が少ないと感じました。（前回の授業で行っていますか？）
- ・2対2、3対3の試合のコート幅がもっと差があっても良いと思います。
- ・試合が始まる前にメガネなどの準備をさせておいた方が良いです。
- ・ボール広い等の役割ができていて良いです。
- ・生徒の活動が適切ではない場合の手直しが上手に行われていました。
- ・指導案は所定の様式に沿っていません。例えば、導入と展開だけで構成される指導案は指導案とは言えません。
- ・授業の雰囲気良く、生徒が楽しそうに取り組んでいる様子が見られました。
- ・特別な配慮が必要な生徒にも活躍できる場面が設定されていて、とても良かったと思いました。
- ・ミニゲームでは、少人数でやることで、沢山ボールに触れることができる環境をつくり、良かったと思います。ただ、人数の変化で、攻め方や守り方に違いがある事に気付いた生徒がいたかは疑問で、全員が2対2を経験し、その後に4対4をやれば実感しやすかったのかなと思いました。

【全員授業研究 振り返りレポート】

- ① 協同学習の要素を取り入れた授業についての感想。
- ② 授業全般を通して、良かったところ、改善すべきところ。

単元・題材名	保健体育「サッカー（フットサル）」	生徒	1 学年
		場 所	体育館
日 時	平成28年10月29日（木）5～6校時	授 業 者	後藤 倫弘
導入で行った「対面的なやりとり」では二人一組で体ほぐしを行い、教師からの指示を受けて活動する場面を設定した。その中で声をかけ合って移動することやジャンプなどの動作をペアで教え合いながら活動することができた。 パス練習では、インサイドキックに必要な技術を指導しつつ相手を考えたパスを要求した。質問をしながら展開することで考えながらの授業を行った。しかし、インサイドキックそのものの技術不足により「相手を考える」ことより「自分のことで精いっぱい」になる生徒が多くみられた。援助したり、教え合ったりする場面は少ないと感じたが、段階的に進めることで励まし合う様子が見られてきた。ペアでパスの強弱を話し合えるような場面を作り出す。 シュート練習では、「個人としての責任」を重視してインサイドキックを用いたコースを意識しての活動を行った。シュートが決まった際には、ナイスシュートの声や拍手が自然と起きる雰囲気であったが、待ち時間が増えると友達同士で会話をして集中力が欠ける生徒もいた。その対策として笛を使って集中した環境を作り出そうとしたが、説明不足により曖昧になってしまった。 ミニゲームでは、「互恵的な相互依存関係」、「協同学習スキル」、「チームの振り返り」を取り入れた。チームごとに2対2、3対3、4対4のメンバーを生徒同士で話し合いながら決めることができた。作戦を考えることや実際のゲームが始まってから応援する様子があり、主体的に展開ができたと思う。振り返りでは、できた部分や改善点などそれぞれが感じたことを話し合う様子が見られた。しかし、サッカーに対する知識が不足しているためか、簡単な話し合いになってしまった。また、指導案にゲームが終わったチームは話し合い活動を行うと明記したが、実際には厳しかった。 1 学年生徒は人数も多いため、練習方法を工夫する必要があることや技術だけでなく知識の部分も指導しなくてはならないと強く感じた。ワークシートを用いての学習展開も良いと思うが違う形式で展開することも必要だと感じた。安全面も十分に留意した（眼鏡の扱いなど*1）授業を行う。2月にフットサルを再度行うときには今回の反省を生かして授業をしたいと思う。 *1 接触プレーやヘディングを行うため、眼鏡や時計を外して活動させたが、眼鏡を外すと極端に視力が落ちる生徒もいるため対応を考えていきたい。			

「体育」（３学年）指導略案

単元・題材名	球技 バスケットボール	生徒	３学年全員
		場所	体育館
日時	平成２８年１１月２８日（月） ５・６校時	指導者	MT：住谷 亮 ST：佐々木 真由美、鈴木 貴史 海田 健
単元の全体目標	・簡易ルールを理解して、ゲームに参加することができる。 ・チームで練習メニューを話し合い、バスケットボールの技術を向上することができる。		
本時の目標	・バスケットボールの基本的なルールを理解する。 ・チームのメンバーを覚える。 ・練習メニューを考えることができる。		

時刻	学習活動	生徒の活動	教師の活動	教材・教具
導入 13:00	集合・整列 始業のあいさつ 出席の確認 教師の話を聞く 準備運動 体ほぐし運動 （二人一組） ・両腕をつないで引っ張り合う。 ・背中合わせで持ち上げる。 ・背中合わせで笛の合図で立つ。 ・向かい合わせになって笛の数だけ手拍子する。	○体育委員は挨拶をする。 ○単元の説明を聞く。 ○本時の内容を確認する。 ○ランニング（５分） ○体育委員を中心に体操 ○教師の指示で動く （２人１組で指示のとおり動く）	○挨拶する体育委員の生徒を指名する。 ○欠席している生徒の確認をする。 ○手足の爪が伸びていないか自分で確認させる。 ○単元の説明をする。 ・１１月２８日～１２月１９日までの２時間×４日 ○全校レクについて説明する。 ・日程 ・ルール ・チーム発表 ・目標設定 <協同学習の要素や配慮事項> ・学年の目標を設定し、互いのチーム同士協力する。 （①、配慮③） ○本時の授業内容を説明する。 ・試合→ビデオ→練習 ○口頭で説明した後、見本を示す。 <協同学習の要素や配慮事項> ・ペア同士で助け合ったり、教え合ったりして体操を行う。 （②、配慮⑤） ○STは生徒の様子を見て、アドバイスをする。	ホワイトボード マジック チームメンバー表 笛 コーン

			○安全面に注意して行うように助言する。	
展開 13:30	ゲーム (ルールは全校レク Ver)	○作戦タイム 1 分間 ○ゲーム ・第 1 試合 チャレンジ A VS チャレンジ B 9 分間 ゴールの高さ 305 cm (試合に出ていない生徒は、得点板とタイマーを行う。) ・作戦タイム 1 分間 ・第 2 試合 フレンドリー A VS フレンドリー B 6 分間 ゴールの高さ 290 cm (試合に出ていない生徒は、得点板とタイマーを行う。) ○休憩 ○トイレ、水分補給、汗の始末等を行う。	○キャプテンを中心に簡単な作戦を決める。 <協同学習の要素や配慮事項> ・チームのメンバーで作戦を議論する。(②、配慮⑫) ○ゲームをする。 <協同学習の要素や配慮事項> ・目標達成に向かって協力し合ったり、教え合ったりする。(配慮⑥) 審判：住谷、海田 ビデオ撮影：鈴木 試合に出場していない生徒の指導：佐々木	得点板 タイマー ボール ビデオ 笛
	振り返り 話し合い 練習	○ビデオを見てチームの足りないところを話し合い本日の練習メニューを決める。 ○チームごとに練習	○振り返る <協同学習の要素や配慮事項> ・現在のチームの状況と自分の個人の役割を再確認する。(③、⑤、配慮⑭、⑮)	テレビ
まとめ 14:30	片づけ 整理体操 本時の振り返り 次時の確認 終業のあいさつ	○全員で道具を片づける ○整理体操を行う ○上達シート ○指名された体育委員は挨拶をする。	○全員で道具を片づけるよう促す。 ○上達シートの説明をする。 <協同学習の要素や配慮事項> ・ワークシートに練習した内容と上達したと思うことを記入し、個人によって成長の違いがあることを知る。(⑤、配慮⑬)	筆記用具

(凡例)「前時の復習…」～授業の流れの骨子、「○互いに教え合う…」～協同学習に関わる教師の活動

※(①)… 互恵的な相互依存関係、(②)… 対面的なやり取り、(③)… 個人としての責任

(④)… 協同学習スキル (⑤)… チームの振り返り

※(配慮①～⑪)… 配慮事項については、マニュアル P 8～10 参照。

※(配慮☆)… オリジナルの配慮事項。

授業参観者アンケート

授業者：住谷 亮
協同学習（各要素）についての評価
①互恵的な相互依存関係 ・学年の目標を決めることで、一人一人が目標を意識して活動しよう気持ちが芽生えると感じた。
②対面的なやりとり ・T Tを話し合いの場面で上手く活用していて、ほどよく支援されていた。
③個人としての責任 ・雑談の場面なのか、指導している場面なのか、わかりにくいところがあったので、一定の区切りのときに明確な指示や呼びかけがあっても良かった。(自由な空気でラフな話し合いが良いときとリーダーによる記入者が決まったまとまりある話し合いの場面を設定した方が効果的になるときもあるので・・・) ・バスケットボールが上手な生徒は一人で頑張りすぎてしまいがちのため、仲間にパスを回してメンバー全員で頑張る姿勢を作るのが大切だと感じました。
④ 協同学習スキル ・「ナイスシュート」や「いけ！」などと試合を共に行っている仲間に声を掛けるのと、観戦している生徒も試合をしている生徒に声を掛ける一面が多々見られました。 ・休憩時間中に単独で練習している生徒もいましたが、チーム関係なく教え合っている一面が見られました。
⑤チームの振り返り ・ビデオを見て振り返るのは、自分の動きを客観的に見ることができて振り返りとして効果的だと感じました。 ・試合の映像を見せることで、チームとして、個人として良いところや改善すべきところを具体的に話し合えんと思いました。 ・映像を使って、活動を振り返る活動など生徒にとって適切な振り返りができているなと感じました。
協同学習全体を通して ・グループ内でだいたいのメンバーが意見を言える空気感ができていて、一部の話の流れに偏って話を進めているグループがなく良い。 ・何をやっていいかわからない生徒がいなく、仲間同士の支え合いを感じる授業でした。 ・休憩時間にもペアや仲間で教え合っている様子があったので、協同学習が身に付いているのだなという印象を受けました。 ・チームごとに目標や作戦等を考える時間を設定していたことが、技術の上達にもつながると思うので良かったと思いました。

授業を通しての感想（良かったところ・改善点など）

- ・全体的にMTとSTが効果的に作用していて良い授業だと感じました。大変勉強になりました。参観させていただき、ありがとうございました。お疲れ様でした。
- ・授業の流れがとても効率良く、休憩中にビデオの調整を行い振り返る流れがとても勉強になりました。
- ・去年の全校レクの話から、今年全校レクの目標を最初に生徒全員に下ろしていたことが良かったと思います。
- ・ビデオを見て振り返る際に、スローで再生できたりすると動きが分析できてより効果的なものかもしれないと感じました。ペンで書き込めたりできたら、もっといいかもしれませんが、学校にある教具では難しいですね…。

【全員授業研究 振り返りレポート】

- ① 協同学習の要素を取り入れた授業についての感想。
- ② 授業全般を通して、良かったところ、改善すべきところ。

単元・題材名	体育 「バスケットボール」	生徒	3 学年 19 名
		場 所	体育館
日 時	平成 28 年 11 月 28 日（月） 5 ・ 6 校時	授 業 者	住谷 亮
今回の授業で協同学習の要素を取り入れたのは、1 チームごとに目標を設定する。2、ペアを組んで体操する。3、試合の作戦を議論する。4、試合で協力し合ったり、助け合ったりする。5、ビデオを見て振り返る。6、ワークシートの記入。 の6カ所だった。 100 分ある授業の中で適切な配分で協同学習の要素を盛り込んだ予定だったが、時間が 20 分程度足りなくなってしまい、予定した内容ができなかった。 議論や話し合いなどの場面を多くすると、予想しているより時間がかかってしまう。今回、今協同学習の要素を意識した授業を行い、良かったところは、いつもの体育の授業より発言が増え、行動や話し合いが活性化した。悪かったところは、協同学習の要素を取り入れることを意識しすぎて、生徒の運動量がいつもより少なくなった。（練習する時間がなくなってしまった。） 「1、チームごとに目標を設定する。」では、「①互恵的な相互依存関係」を意識して、チームでの話し合いを行ったが、発言する人が決まっているため、全員平等に発言する工夫が必要だった。「2、ペアを組んで体操する。」では、「②対面的なやりとり」の要素を取り入れた。ペア同士で力の加減を工夫したり、声を掛け合ったりすることでコミュニケーションスキルアップの効果を狙うことができた。「3、試合の作戦を議論する。」では、「③個人としての責任、④協同学習スキル」を意識してチームごとに話し合いを行った。自分の発言した作戦に責任を持って最後までチームメイトに説明できる生徒は、少なかったが、数名いた。「4、試合で協力し合ったり、助け合ったりする。」では、「①互恵的な相互依存関係、②対面的なやりとり」の要素を狙っていた。試合前に作戦会議をすることで生徒同士で共通の認識が芽生え、試合中に実践することができていたチームがあった。5と6の振り返りについては、時間がなくなり行うことができなかった。 今回の授業を通して、協同学習の要素を意識した授業を行うことで長所と短所を再認識することができた。 授業を終えてみると、全体の授業のバランスを考えて協同学習の要素を取り入れていくことが重要だと感じた。			

体育

協同①ー「互恵的な相互依存関係」

「クラス（班）の全員が課題をクリアする。」、「班で各自が自分の役割を果たし、協力して壁新聞を作る。」など、目標、活動、教材、役割分担、評価や成果（例えばでき上がった作品・製品の他、賞状、達成のご褒美シールなど）などについて互いに協力を必要とするような関係を具体的に書いてください。

- ・体育祭競技（学年種目）で勝つための作戦会議を実施する。
- ・シッティングバレーボールを行う前に、ポジションとサーブ順を決めて、個々の力を発揮しやすくするための作戦会議を行う。
- ・シッティングバレーボールやサッカーの球技で勝利に向けて話し合いをし、役割を決める。
- ・他の種目同様、勝利に向けて、チーム内で協力し合って作戦を練る。

協同②ー「対面的なやりとり」

仲間同士、援助したり、教え合ったり、議論したり、励ましたり、誉めたりし合うことで生徒がお互いの（学習の）成功を促進し合う機会を授業場面で設定してください。

- ・ペアでストレッチを行い、適切な力の入れ方を考え伝えあう。
- ・ラジオ体操でペアになり、動作のポイントや修正すべき所を教え合う。
- ・水泳でバタ足の仕方やどのように力を入れると良いかを教え合う。
- ・水泳で複数名でグループ編成を行い、それぞれの泳ぎ方を水中で見てもらい、良い点や改善点（気になった点）をお互いに確認し合う。
- ・体力測定でソフトボールの測定を生徒が担当し、計測結果を伝える。
- ・ソフトボールでペアでキャッチボールを実施し、投げ方をアドバイスし合う。
- ・シッティングバレーボールやサッカーの球技で、名前を呼んでからパスを行う。
- ・バスケットボールで仲間がプレーしているときに、守備についた方が良いところや攻めやすい場所を伝え合う。

協同③ー「個人としての責任」

生徒一人一人には個人の責任があり、自分のやるべき役割を果たして個人目標に到達できるように、一人一人の活動や役割を設定して書いてください。

- ・シッティングバレーで、試合のないチームが線審や得点板の役割を行い、主審に伝える。
- ・バッティング練習では、個々の役割（ボールをあげる人、打つ人、守る人、送球を受ける人等）明確にして行う。
- ・生徒一人一人が競技に必要な用具を責任を持って時間内に用意する。
- ・ペアで水泳記録の計時係を交代して行う。
- ・サッカーでオフェンス・ディフェンスなど、役割を行う。
- ・ルールや約束の目的を理解し守ることにより、自分の役割を果たす。
- ・バスケットボールで個人の役割を明確にし、動き方を提示する。

協同④ー「協同学習スキル」（考えるスキル・集団活動スキル・コミュニケーションスキル、教科固有の協同学習に関わるスキル）

より質の高い協力と学習ができるように、授業で指導する社会的スキルと教科固有のスキルを書いてください。

- ・学習集団を2人から3人、3人から6人と人数を増やすことで話し合う声の大きさや情報共有の仕方を考え、行動する活動を設定する。【考えるスキル・コミュニケーションスキル】
- ・ワークシートに記入しながら、作戦会議、反省、次の試合の仕方を考える。【考えるスキル】
- ・協力して道具を準備したり、片付けたりする。【集団行動スキル】
- ・ソフトボールに必要な用具一式の準備を生徒だけで行う。【集団行動スキル】
- ・水泳でペアになって相手のバタ足の様子を見て、修正すべき点を伝える。【考えるスキル・コミュニケーションスキル】
- ・ソフトボールなどのバッティング時に足の運びや身体のひねり、視線などを経験者が伝える。【コミュニケーションスキル】
- ・課題を振り返るだけではなく、次回に向けての個人の動きや守備位置について考える。【考えるスキル】
- ・クロスカントリースキーで、用具の着脱をするときに困っている生徒がいるときに声をかける。【コミュニケーションスキル】

協同⑤ー「チームの振り返り」

どのように援助し合ったり、協力し合ったりしたらチームがうまくいったのかについて、書いてください。

- ・サッカーでチームごとに試合中の守備や攻撃の振り返りを行い、ワークシートに記入する。その結果から次の試合に改善できることを分析する。
- ・効率良く練習するためにどのような動きをすれば良いのかを考える。
- ・視覚的教材（ビデオカメラ、テレビ）を使用し、試合の様子を振り返り、効果的な戦術について話し合う。

成果と課題

- ・作戦会議、振り返り、分析を行ったことで、生徒同士で相談して取り組むことができた。
- ・どの種目についても、ルール説明を徹底し、ルールを理解させる必要がある。
- ・球技においては、ボールに慣れていなければ試合を行うことが難しいため、ボールに慣れるための活動を多めに設定する必要がある。
- ・各種目で話し合い活動を取り入れることで、話し合いはスムーズになってきた。しかし、ルールの理解力や運動能力に差がある。

解決策（解決策の方向性）

- ・ルールの理解や競技に慣れるための時数確保及び指導法の工夫を行う。
- ・細かなルールや戦術などについても指導していき、生徒同士で話し合う時間を1年生段階から設定していく。
- ・ルールの理解が大前提である。

- ・ 体育の授業だけではなく、各授業と連携することで話し合う力が高まっていくため、それぞれの担当者と連携を図り、統一した指導を行っていく。
- ・ 3年間で発展できるような年間指導計画の作成および指導を行っていく。